

4 考 察

(1) 三者(児童・保護者・教師)共通項目

- ・ 児童の回答結果から、「とても思う・少し思う」の割合が比較的多いのは、「1 学級で仲良く」、「4 人の話をしっかり聞く」、「7 交通ルールを守る」、「8 楽しい・わかりやすい授業」、「10 家庭学習・適切な課題」、「11 行事は楽しい」であった。反対に、「あまり思わない・全く思わない」の割合が比較的多いのは、「3 しっかりあいさつ」、「6 忘れ物をしない」、「9 子どもの相談にきちんと対応」であった。次に、保護者の回答結果から、「とても思う・少し思う」の割合が比較的多いのは、「1 学級で仲良く」、「2 通学団で仲良く」、「7 交通ルールを守る」、「9 子どもの相談にきちんと対応」、「11 行事は楽しい」であった。反対に、「あまり思わない・全く思わない」の割合が比較的多いのは、「3 しっかりあいさつ」、「4 人の話をしっかり聞く」、「5 履物の整頓」、「6 忘れ物をしない」、「8 楽しい・わかりやすい授業」、「10 家庭学習・適切な課題」であった。また、教師の回答結果から、「とても思う・少し思う」の割合が比較的多いのは、「3 しっかりあいさつ」、「4 人の話をしっかり聞く」、「8 楽しい・わかりやすい授業」、「9 子どもの相談にきちんと対応」、「10 家庭学習・適切な課題」、「11 行事は楽しい」であった。反対に、「あまり思わない・全く思わない」の割合が比較的多いのは、「1 学級で仲良く」、「5 履物の整頓」、「6 忘れ物をしない」、「7 交通ルールを守る」であった。
- ・ この結果から、学級や通学団内で良好な人間関係を築いている児童が比較的多く、人の話をしっかりと聞いていたり、交通ルールをしっかりと守ったり、家庭学習や適切な課題に取り組んでいたり、学校行事を通して充実感や達成感を味わったりして楽しく学校生活を過ごしている児童の姿が見えてくる。その一方で、教師や保護者にはあいさつができていても、友だち同士や地域の方にあいさつがあまりできていなかったり、忘れ物が目立ったり、人間関係のトラブルや悩みを抱えている児童の姿も見えてくる。また、保護者の方は、自身の子どもや本校に来校したときや、あるいは地域で見かける本校児童の日頃の姿を通して、あいさつがあまりできていない、話をしっかり聞いていない、履物の整頓ができていない、学習内容に対する理解が不十分であると感じている。さらに、家庭学習をもっと充実させて欲しい、もっと適切な課題を与えて欲しいと望んでいる保護者も少なくないといえる。そして、教師の方は、全体的に「とても思う・少し思う」と回答する項目の割合が多く見られるものの、学級内における人間関係のトラブル解決に努めたり、普段の学校生活でトイレのスリッパやげた箱の整頓状況について指導したり、地域で見かける自転車に乗っている児童の姿から、交通ルールを守る指導の必要性を感じていたりしている。とりわけ、忘れ物については、児童・保護者・教師の三者とも、「あまり思わない・全く思わない」と回答する割合が多いことから、本校児童における共通課題といえる。さらに、子どもの相談にきちんと対応していると感じている教師の回答が多い一方で、保護者や児童は、教師が思っているほどきちんと対応してもらっていないと感じている割合が少なくないといえる。このことから、教師に相談しようと思っても、うまく相談することができずにいる児童がいるという実態がうかがえる。

(2) 二者(保護者・教師)共通項目

- ・ これまで多くの項目で年を経る毎に保護者から「とても思う・少し思う」のプラスの回答が増えつつあったが、昨年度は減少に転じている項目が増えてきていた。今年度は、「15 わかりやすく情報発信」を筆頭に、「12 個を大切にした授業」、「13 基礎・基本の定着」、「16 保護者の声を反映」、「17 保護者の悩みにきちんと対応」、「18 子どもの安全・事故防止」、

「19 家庭との連携・連絡」の6項目で、「とても思う・少し思う」と回答する割合が増えている。昨年度の反省を踏まえて、授業改善や保護者対応、情報発信や学校安全等に力を注いだ結果と受け止められる。

- ・ 「14 保護者の声を反映」、「17 いじめ・不登校がない学校」の項目で、保護者・教師ともに、「とても思う・少し思う」と回答する割合が減少している。このことから、勤務時間外の在校時間の削減等といった教師の多忙化解消をめざして「働き方改革」が進められている中で、教師が子どもと向き合う時間の確保や実現可能な範囲で保護者が願う教育活動が展開できるように、業務内容の見直しや学校運営の改善をさらに図っていくことが必要であると考え。

(3) 二者(児童・保護者)共通項目

- ・ 「20 毎日朝ご飯」の項目では、5年生と2年生の児童で「あまり思わない・全く思わない」と回答した割合がやや多かった。また、「21 早寝早起き」の項目は、6年生の児童で「あまり思わない・全く思わない」と回答した割合が3割を超えていた。また、6年生に次いで1年生と2年生の児童で「あまり思わない・全く思わない」と回答した割合が多かった。規則正しい生活リズムの確立とともに、食育・保健便り・学校保健委員会などで睡眠や朝食の重要性を引き続き児童・保護者に訴えていくことが大切と考える。

(4) 児童のみの項目

- ・ 22~28の項目は年々プラス評価が増加してきたが、今年度は、マイナス評価の項目が増えている。実際の子どもたちの姿を見る限りは、素直で落ち着いた学校生活である。相互評価の場面を増やしたり、よくできている場面をとらえて褒める機会を増やしたりして、自己肯定感をより高めていけるようにしていきたい。
- ・ 自分用のスマートフォンなど、インターネットに繋がる機器を所持しているかの調査では、全児童の45%が所持していることが明らかとなった。学年が進むにつれて多くなり、5・6年生で5~6割近くの児童が所持している。3・4年生ですでに半数以上の児童が所持していることから、できるだけ高学年になるまでに、安全で正しく使用できるようにするために情報モラル教育を実施していくことが必要であると考え。

(5) 教師のみの項目

- ・ 今年度から、勤務時間管理の状況についてのアンケート項目を追加した。従来の手入力によって在校時間を記録するのではなく、昨年度9月からタイムカードによって出勤時刻と退勤時刻をコンピュータシステム(怠勤システム)で管理する方式を導入した。その結果、従来の手入力による煩わしさがなくなり、より簡単に在校時間を管理ができるようになった。回答結果は、「とても思う・少し思う」が92%と、好意的に受け止められている。その一方で「全く思わない」という回答が8%もあることから、この怠勤システムによる勤務時間の管理が形骸化することのないよう、業務内容の削減や見直しを、さらに図っていく必要がある。

5 成果と課題

【学校生活】

- ・ 「9 先生に相談するか」の項目は、思春期を迎えるとなかなか自分から教師に言えないことが多くなるが、声かけや生活アンケート、さらには児童同士の会話にもアンテナを高くして早期発見に努め、面談などにより解決を図っていきたい。
- ・ 「25 休み時間に運動場へ出て元気よく遊ぶ」児童がたくさんいるが、学年が上がるにつれて少なくなっている。教師も児童に声をかけ一緒に遊ぶ姿も多く見られた。遊びの場面からも人との関わり方を学ばせていきたい。

【授 業】

- ・ 「8 授業はわかりやすく楽しいですか」の問いでプラスの回答をした児童が 90%となっている。さらに授業研究などで研修を深め、わかりやすく楽しい授業の展開を工夫して、3%の「全く楽しくない」という児童を 0%にしていかななくてはならない。

【学校行事】

- ・ 「11 学校行事は楽しいですか」の問いに多くの児童がプラスの回答をしている。児童が達成感や充実感のもてる行事の在り方をさらに工夫していきたい。
- ・ 地震・津波・火災に対する避難訓練を定期的に、授業中・休み時間など様々な場面を想定して行うことで、静かに落ち着いて機敏に避難行動がとれる児童になってきている。どの訓練のときでも常に真剣に行動でき、ふざける児童の姿は見られない。

【教職員の資質向上】

- ・ 校内現職教育では、算数教育、ハイパーQ-Uテスト結果の活用、合唱指導等の講師を招聘し、研修を深めることができた。また、防犯教室、食育、そろばん等の出前授業を児童対象に行い、実りあるものになった。

6 改善策

- ・ 「6 忘れ物をしない」の項目が、児童・保護者・教師の回答結果から、毎年課題となっている。各学級担任の方から、連絡帳を通じて持ち物の連絡や忘れ物をした際の児童への指導や保護者への連絡を、その都度繰り返し行っているが、なかなか改善されていないのが現状である。さらに学年が上がるにつれて、忘れ物をしている割合が多い。低学年のうちの習慣を継続できるように、必要に応じて、持ち物チェックリストを作成する等の工夫もしていきたい。
- ・ 「9 子どもの悩みに親身に応じているか」、「16 保護者の相談に親切に対応しているか」の項目は、保護者や教師よりも、児童の方がマイナス評価となっている。ハイパーQ-Uを十分活用し、教師が児童と向き合う時間を確保することが急務である。「働き方改革」を進める中で、子どもの存在を置き去りにすることのないように、思い切った行事の改革を図り、授業時間数にしわ寄せが来ないように、ゆとりのある教育活動が展開できるように努めていきたい。例えば地域との連携を強化して、外部講師の活用をさらに進めたり、可能な範囲で一部教科担任制を取り入れたりして、教科指導における負担軽減化や効率化を図っていきたい。
- ・ 平成27年度に6年生のみに「30 自分用のスマートフォン等をもっているか」の問いかけをしたところ、38%の児童がもっているという結果であった。平成28年度からは全学年にこの問いかけをするようになり、全校児童の45%が所持していることがわかった。平成30年度は、全校児童の44%が所持をしていたが、今年度は、全校児童の45%が所持をしている。6年生だけで見ると、昨年度の所持率は56%で、今年度の所持率は59%である。

平成29年度から4年生に対して「スマホ安全教室」を実施することにし、スマートフォン等インターネットに繋がる機器がもつ危険や使うときの約束など、情報モラルについて学習することになっている。今年度3年生の所持率が全学年で最も多い61%に上ったことから、次年度以降も専門家の力を借りて、早期に情報モラルの啓発を図っていきたい。また保護者に対しても、ネットトラブルに未然に防止するために保護者としてできる役割について学んでいただけるような機会を設けていきたい。